SHOW-HEYシネマルーム

★★★★★

狙撃手（狙击手／SNIPERS）

2022 年／中国映画
配給：　／　分

2022（令和４）年４月 12 日鑑賞	オンライン鑑賞

Data　２０２２－４４

監督：張藝謀／張末

出演：章宇／张译／陈永胜／刘奕铁

みどころ

２０１５年の夏季に続く今年２月の北京冬季五輪の開会式の総指揮は、張藝謀（チャン・イーモウ）。そんな大活躍の一方で、春節での本作の公開はすごい！『長津湖』（２１年）に続く『長津湖之水門橋』（２２年）の大人気にはかなわなかったが、五輪効果も本作を後押し！

スナイパーものは面白い。それは『スターリングラード』（０１年）や『山猫は眠らない』シリーズ等で明らかだが、１９６２～６３年の冬、朝鮮戦争（抗米援朝戦争）における中国人民志願兵たちの“米中対決”は如何に？

大雪原を舞台とした狙撃手たちの大活躍で徹底的に国威発揚！そんな演出もありうるが、さて、本作は？

――＊――＊――＊――＊――＊――＊――＊――＊――＊――＊――

张艺谋（チャン・イーモウ）是继 2015 年夏季奥运会之后，今年 2 月北京冬季奥运会开幕式的总导演。在取得那样大的成功之外，这部电影还能在中国新年期间上映也是令人赞叹的！虽然赶不上继《长津湖》（2021 年）之后的《长津湖之水门桥》（2022 年）的巨大人气，但奥运效应也推动了这部电影。

狙击手的题材很有趣，这在《兵临城下》（『スターリングラード』）（2001 年）和《狙击手》（『山猫は眠らない』）系列等影片中就很明显。 1962～63 年冬季的朝鲜战争（抗美援朝战争）期间，中国人民志愿军的 ″中美对抗 ″将如何呢？

在大雪域舞台上，以狙击手的巨大成功，彻底发扬国威！ 这样的导演也是有可能的，那么，这部电影中是吗？

――＊――＊――＊――＊――＊――＊――＊――＊――＊――＊――

■□■張藝謀監督の精力的な活動に感嘆！■□■

２０２０年２月４日から２０日に北京で開催された冬季五輪の開会式の総指揮は、２０

１５年の北京夏季オリンピックの開会式に続いて、張藝謀（チャン・イーモウ）監督がとった。夏季五輪の演出はド派手さが目立っていたから、冬季五輪でものっけから緑色のレーザー光線が飛び交う様子を見ていると、その二番煎じ！？そう思ったが、実はこれは人が棒を振っていると知ってビックリ。２カ月の猛訓練の成果らしい。

陳凱歌（チェン・カイコー）監督と共に中国第五世代を代表するチャン・イーモウ監督の映画創作意欲は衰えることなく、『SHADOW　影武者』（１８年）（『シネマ４５』２６５頁）や『愛しの故郷（我和我的家乡』（２０年）（『シネマ４９』２４０頁）と続いていた。そんな彼は北京五輪の総指揮をとる一方で、娘の張末（チャン・モウ）との共同監督で本作を完成させたというからすごい。中国では近時、『戦狼２　ウルフ・オブ・ウォー２』（１７年）（『シネマ４４』４３頁）や『長津湖』（２１年）が大ヒット、それに続く『長津湖之水門橋』（２２年）も大ヒットしているそうだから、戦争大作巨編が花盛りだ。

チャン・イーモウ監督は、『愛しの故郷』で『初恋のきた道』（００年）（『シネマ５』１９４頁）の「ほんわか路線」に戻ったと思っていたが、朝鮮戦争を素材にした本作を完成させたのは、そんなご時世に刺激を受けたのかもしれない。驚くのは、彼は本作の完成に満足せず、続いて最新作『満江紅』にも挑んでいること。彼は私より１歳年下の７２歳だが、中国ではその年齢にしての精力的な活動に感嘆の声が上がっているそうだ。

■□■中国語の字幕付きをパソコンでオンライン鑑賞！■□■

日本未公開の本作は、２０２２年の春節（２月１日）に公開された。その時期に公開されるのは有力作が多いが、その１番人気が『戦狼２』を抜いて歴代トップになった『長津湖』の続編たる『長津湖之水門橋』。そのあまりの人気に、本作の売り上げは伸び悩み、チャン・イーモウ監督自身も「ちょっと悲惨」と語っていたらしい。

ところが、２月４日の北京五輪の開会式で、チャン・イーモウの総指揮の下、コンパクトながらも美しく統一感のあるパフォーマンスが繰り広げられた結果、翌日には早くも効果を見せたらしい。そんな本作は、日本では未公開だが、私は中国人の友人の紹介で中国語の字幕付きをパソコンでオンライン鑑賞することに。去る１月２３日に中国語のHSK検定５級に合格した私はストーリー自体はほぼ理解できるが、字幕だけではその詳細に理解不十分な点があるのは仕方がない。その点はご容赦を。

■□■時代は？舞台は？主人公は？登場人物は？■□■

狙撃手を主人公にした名作は、『スターリングラード』（０１年）（『シネマ１』８頁）、『山猫は眠らない』シリーズ、さらに、『ゴルゴ１３』や『ジャッカルの日』などたくさんある。「潜水艦モノは面白い」と同じように、「スナイパーものは面白い」が私の持論だから、本作への期待は高い。

『スターリングラード』は、第２次世界大戦の独ソ戦におけるスターリングラードの攻防戦の中で死闘を続けるスナイパーたちの物語だった。近時は『ナチス・バスターズ』（２０年）（『シネマ４９』９０頁）という面白いロシア映画もあった。それらに対して、本作

は１９５２年から５３年の極寒期における、朝鮮戦争（抗米援朝戦争）の中で、連合国軍（アメリカ軍）と戦う中国人民志願兵の物語だ。

本作の主人公は実在した人物で、そのモデルは張桃芳。彼は朝鮮戦争の３２日間に及ぶ戦闘で、４３６発の銃弾を発射し、敵軍２１４名を射殺した人物で、「伝説のスナイパー」「志願軍の名スナイパー」「狙撃英雄」と呼ばれたそうだ。本作冒頭、刘文武（章宇）率いる十数名の狙撃第５班の戦士たちが登場し、米軍の奇襲に大成功！その後、彼らは、雪原の中に構築されている強固な陣地内で、強力な武器の下で陣地を守る米軍と対峙することになるが、人民志願兵の装備は貧弱。敵の実状を探るための双眼鏡すら班長一人しか持っていないうえ、銃弾も不足しているらしい。もちろん無線もないから、互いの位置確認の連絡は大声でするしかない。第５班に結集する戦士たちは当初こそ刘文武の点呼に大声で反応していたが、戦闘が進むにつれて一人また一人と減っていくことに・・・。

■□■大雪原を舞台に、米中の“狙撃対決”は如何に？■□■

夏季と冬季の北京五輪の開会式を総指揮したチャン・イーモウ監督が、ライフル競技についてどの程度勉強したのかは知らないが、競技のレベルと映画の演出は当然別。したがって、数百メートル以上離れた場所からの狙撃でピンポイントに銃弾を命中させる本作のスクリーン上の演出を見ていると、彼がいかに「映画は演出！」と割り切って面白い演出にこだわっているかがよくわかる。２０２１年９月２４日に亡くなった、さいとう・たかを氏の『ゴルゴ１３』でも、あり得ないような狙撃シーンが随所に登場していたから、漫画（劇画）でも、ある意味での過剰演出はOKらしい。

第１次世界大戦の東部戦線、西部戦線では全く想定外の「塹壕戦」が登場し、兵士たちは凄惨な戦いを強いられたが、それは大雪原の中に複雑な形に張り巡らされた陣地（トーチカ）を舞台に展開する米中の狙撃戦でも同じだ。刘文武たち第５班の狙撃手たちは身体に真っ白いマントをかけ、銃も白い布で覆っていたが、こんな貧弱な装備ではトーチカ内の要所に機関銃を配置した米軍の狙撃兵に対抗するのは到底無理。しかも、米軍には刘文武たちを“あぶり出す”ためのいやらしい作戦も・・・。さあ、大雪原を舞台に、米中の“狙撃対決”は如何に？

■□■主人公の成否は？本作は戦争ドラマ？人間ドラマ？■□■

２０１７年に興行収入トップの金額を更新した『戦狼２』は、アフリカの某国における“中国版ランボー”と呼ばれる主人公の大活躍に、中国人民も習近平国家主席も大喜び！同作ラストにみる、中華人民共和国のパスポートの誇らしさにはまさにビックリ！すると、北京五輪であれほど“わが祖国”の国威発揚に努めたチャン・イーモウ監督だから、本作でも、中国人民志願兵の面々は、徹底的に米軍（連合国軍）を撃破！もちろん、娘のチャン・モウと共同監督した本作ではそんな設定も可能だが、さて、本作における主人公の成否は？米軍の制圧は？

私はチャン・イーモウ監督の「しあわせ三部作」と呼ばれる、『あの子を探して』（９９

年）（『シネマ５』１８８頁）、『初恋のきた道』（００年）（『シネマ５』１９４頁）、『至福のとき』（０２年）（『シネマ５』１９９頁）が大好き。この三部作で彼は「新人女優探しの名人」と呼ばれたが、彼は本作では雪原の中で米中の狙撃兵が対峙する中、突然１人の男の子をひょこひょこと歩いて登場させるので、それに注目！これは一体ナニ？米中双方の狙撃手たちがそれに惑わされたのは当然だが、その対処は？そこに民主主義国と共産主義国との違いがあるの？

そんな論点を含めながら、本作にみるチャン・イーモウ演出の巧みさとすばらしさをしっかり味わいたい。

■□■大日本帝国を駆逐した後の中国は？朝鮮は？■□■

１９４５年の第２次世界大戦後、アメリカとソ連は戦勝国として力を伸ばしたが、ヨーロッパは戦後処理に大変だったし、中国（大陸）も大日本帝国を駆逐した後、“国共内戦”に突入したから大変。蒋介石率いる国民党を台湾に追いやり、毛沢東率いる中国共産党が天下を握り、中華人民共和国を建国したのは１９４９年１０月１日だ。

やっと大日本帝国を駆逐した朝鮮半島でも、すんなり朝鮮民族の解放と国家の統一が成らなかったのは大きな不幸だが、そうかといって、いきなり北から南へ攻め込んだ金日成同志の決断はいかがなもの？電光石火の攻撃によって、韓国軍はたちまち半島東南端の釜山（プサン）まで追い詰められたが、そこから奇跡の大活躍をしたのが、対日戦で大活躍したダグラス・マッカーサー。１９５０年９月に仁川に上陸したマッカーサー率いる国連軍のおかげで韓国軍は盛り返し、ついに１９５３年の休戦協定によって３８度線上に非武装地帯が設置され、今日まで停戦状態が続いている。

ソウルより西方２０km 付近にある仁川に（逆）上陸した国連軍が、ソウルを奪い返しただけではなく、今度は逆に北へ北へと侵攻しているのを見て、「義を見て為さざるは勇なきなり」とばかりに、中国人民志願兵を組織し、隣国朝鮮へ派遣したのが建国後間もない中華人民共和国。したがって、毛沢東と金日成との“赤い同盟”は、まさに“血の同盟”だ。それが６０年前の朝鮮戦争、中国流にいえば“抗米援朝戦争”だ。

■□■60 年前の朝鮮情勢と中国人民志願兵を現在と比べると■□■

民族と国家を南北に分断された朝鮮半島の情勢が大きく変化していったのは、民族と国家が東西に分断されたドイツと同じ。もっとも、ドイツは１９８９年７月にベルリンの壁が崩壊したことによって、西側に吸収される形で東西ドイツの統一が実現したが、朝鮮半島は今なお“停戦状態”のままで、北（朝鮮民主主義人民共和国）は北なりの、南（大韓民国）は南なりの国家運営を続けている。

朝鮮戦争後の“軍人支配”を脱して、民主主義国になった韓国では、来る２０２２年５月１０日に５年ぶりの“政権交代”が実現するが、政治の混乱はひどい。金王朝の三代目たる金正恩率いる独裁国家の北朝鮮は、かつてトランプ大統領との対話（？）の中、一時的に核施設を“爆破”したが、ウクライナ情勢が混沌とする中、再びミサイルと核を巡っ

てヤバい動きを加速している。今でも北朝鮮と“血の同盟”を結んでいる中国は、世界中からの経済制裁によって“飢える国”になってしまった北朝鮮への援助は怠らないし、東へ向けたミサイルの開発にも反対しないが、さすがに核開発には明確に反対しているが、さて金正恩は今どんな思惑なの？

他方、ロシアによるウクライナ侵攻を受けて、習近平国家主席の悲願である「中華民族の統一」、すなわち、「台湾への侵攻」の可能性がクローズアップされているが、今の中国人民解放軍の陸海空、プラス宇宙やデジタルの戦力は、６０年前の比ではない。アメリカには劣っているものの、すでに日本のそれをはるかに超えている。そんな昨今の中国が進めてきた大国家戦略が“一帯一路政策”だから、『戦狼２』が大ヒットしたのも頷ける。アフリカの某国で内戦が勃発しても、それくらいのことは、中国人民解放軍の“ランボー”クラスの優秀な兵士を派遣すればすぐに解決できる、というわけだ。すると、チャン・イーモウ監督は、なぜ本作で６０年前の朝鮮戦争における中国人民志願兵の姿を描いたの？そこからどんな教訓を導こうとしたの？６０年前の朝鮮情勢と中国人民志願兵と現在のそれを比べながら、そんな“論点”もしっかり突き詰めたい。

２０２２（令和４）年４月２１日記